

# 「ヨーロッパ中央部」を活用したドイツの学習 —新編『中学校社会科地図』の使い方の一例として—

奈良教育大学助教授 岩本廣美

世界の国々を調べる学習を進めていくうえで絶えず意識すべきことは、日本とそれぞれの国との共通点と相違点です。また、学習する国を近隣の国々との関連のなかでとらえることもたいへん重要です。ドイツの学習を例に考えると、新編『中学校社会科地図』(以下、地図帳)で新しく登場した3ページ見開き(p.37~39)地図「ヨーロッパ中央部」(表紙裏掲載の地図参照)は、こうした視点による学習にきわめて効果を発揮し、おおいに活用されることが望まれます。800万分の1の拡大図で西ヨーロッパから東ヨーロッパまでの広い範囲を詳しく多面的に見ながらドイツを調べることができるからです。この3ページ見開き地図を読み取ることによって、ドイツと日本との共通点や相違点をいくつも学習することができ、また、統合が進みつつあるヨーロッパの中のドイツの特色を確実に学ぶことができます。

## 1 ドイツの緯度

まず、「ヨーロッパ中央部」でドイツの緯度を確認してみましょう。この視点は、ドイツの地球上における位置を確認することであり、地理的分野で世界の国々を学習するうえで、もっとも基本的な視点のひとつです。地図上の緯線を確認することによって、ドイツは、おおよそ北緯46°から56°の範囲に広がっていることがわかります。p.39右下の黒海付近

に、同緯度の北海道が比較のために描かれています。これによって、ドイツの緯度は日本付近でいえばサハリンとおおよそ同じであり、日本本土よりはるかに北のほうに位置する国であることがわかります。このことは、ドイツでは、夏至のころは昼が日本より長く、反対に冬至のころは夜が長いことを意味します。また、ドイツにかぎらず、「ヨーロッパ中央部」に描かれた国々の多くが、日本より緯度の高い地域に分布していることも合わせて確認することができます。

## 2 ドイツの近隣の国々

次に、「ヨーロッパ中央部」を使うことによって、ドイツが国境を接している近隣の国々を調べることができます。ドイツは、北から時計回りの順に列挙すると、デンマーク、ポーランド、チェコ、オーストリア、スイス、フランス、ルクセンブルグ、ベルギー、オランダの計9か国と接しています。島国の日本で生活していると、陸地で隣国と接している状況は想像すらできませんが、ヨーロッパでは、イギリスなど一部の国を除いてごく一般的なことであり、このことも日本との相違点としてきわめて重要です。

というのは、ヨーロッパは、長い歴史の中で国境の変動を繰り返してきた地域であり、ときにはヨーロッパ全土を巻き込む大戦争を引き起こしてきた地域でもあるからです。ド



帝国書院『中学生の地理（初訂版）』p.123

ドイツについても、最近東西の統一という国境の変動に関わるできごとがありました。いっぽう、近年は、EU（欧州連合）の拡大とともに、統一通貨ユーロの導入など、ヨーロッパとしての統合化がいつそう進み、国境を越えた人や物の移動などがさらに自由になってきています。その中心にあるのがドイツなのです。ドイツの人口は、地図帳p.131の統計資料によって、約8,200万人であり、これは、ロシアを除くとヨーロッパで最大規模の人口であることもわかります。ドイツは、ヨーロッパにおける大国です。

### 3 高速鉄道の発達

人の移動に関わってヨーロッパで見落とせないものは高速鉄道の発達です。「ヨーロッパ中央部」では、TGV（フランス新幹線の略称）やICE（ドイツ新幹線の略称）などの高速鉄道を一般的な鉄道と区別して表示しているため、これらの分布を容易に調べることが

できます。地図を見ると、ドイツは高速鉄道がもっとも発達した国であることや、フランス、スペイン、イタリア、スイス、オーストリア、さらにはイギリスにまで高速鉄道が延びていることも読み取れます。縮尺は異なりますが、地図帳p.66～69の基本図「日本列島(2)」やp.66の主題図「日本の鉄道網」を読み、日本の高速鉄道である「新幹線」の分布状況と比較する視点をもつこともできます。鉄道に興味のある生徒がいる場合、発展学習としてドイツと日本の新幹線のそれぞれの歴史や車両の特性などを調べて発表させるといった展開も考えてよいでしょう。



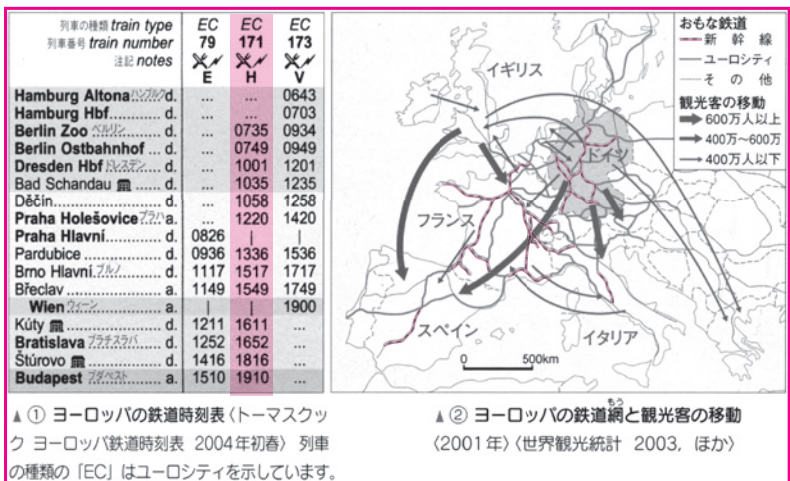
帝国書院『中学生の地理（初訂版）』折りこみ12

### 4 国際列車

ヨーロッパの鉄道が日本と大きく異なる点は「国際列車」があることです。『社会科中学生の地理（初訂版）』p.122には、ヨーロッパの鉄道時刻表の一部が掲載されており、ユーロシティ（EC、国際特急列車）の出発地や最終到着地、停車地などを調べることができます。

たとえば、EC171号は、朝7時35分にベル

リンを出発し、ドレスデン、ブラハ、ブルノ、ブラチスラバを経て、19時10分にブダペストに到着することがわかります。経由した都市の位置を「ヨーロッパ中央部」で確認すると、ドイツを出発した列車は、チェコ、スロバキアを経て、ハンガリーの首都ブダペストに到着していることが読み取れます。また、「ヨー



ロッパ中央部」の縮尺が800万分の1であることから計算し、出発地ベルリンと到着地ブダペスト間の直線距離は約680kmであることが導かれます。となると、列車の走る平均時速は60kmにも満たないこともわかります。国際列車といってもスピードは高速ではない場合もあるようです。ちなみに、EC171号に乗ってベルリンからブダペストまで旅行する場合、車内で少なくとも1回は食事をしなければなりません。客によっては2度あるいは3度車内で食事をとる例もあるかもしれません。食堂車のメニューからどのような飲み物や料理を選ぶことができるのかを調べることができればいっそう楽しい学習になりそうです。

帝国書院『中学生の地理(初訂版)』p.122

に対して、ドナウ川は815,000km<sup>2</sup>と大きな差があることがわかります。この相違は当然流量の差となって表れます。

これらの川の流路は「ヨーロッパ中央部」の地図に描かれているので、これはぜひとも生徒に地図をていねいに調べさせたいものです。ここでとくに注意深く生徒に読み取らせたいことは、それぞれの川がどこから流れはじめ、何という国を通過し、何という海に流れでるかということです。ドナウ川の場合、ドイツの南部に源流部があり、オーストリア、スロバキア、ハンガリー、クロアチア、セルビア(注)、ルーマニア、ブルガリア、モルドバの9か国を通過し、黒海に流れ込んでいます。途中、ウィーン、ブラチスラバ、ブダペスト、ベオグラードの四つの首都を通過することから、首都になっているそれぞれの都市がドナウ川との関連で発達してきたことも予想できます。このように「ヨーロッパ中央部」の地図を読み取り、ドナウ川の流れに乗って、ドイツからヨーロッパの東部の方面まで視野を拡大することができるのです。

注) セルビア・モンテネグロは、2006年6月16日に、セルビア(首都ベオグラード)とモンテネグロ(首都ポドゴリツァ)に分離独立しました。

## 5 国際河川

日本ではみられない国際河川が流れているのも、ヨーロッパの特徴です。その代表的なものは、ライン川とドナウ川です。地図帳p.127の統計「世界のおもな川」を見ると、それぞれの川のあらましを調べることができます。川の長さはそれぞれ、ライン川が1,320km、ドナウ川が2,850kmであることがわかります。また、流域面積を日本の川と比較してみると、日本で最大の石狩川が約14,000km<sup>2</sup>であるの